秋田県文化財調査報告書第226集

遺跡詳細分布調查報告書

1992 • 3

秋田県教育委員会

遺跡詳細分布調查報告書

1 9 9 2 • 3

秋田県教育委員会

本県には約3,900箇所の周知の遺跡があり、さらに未発見の埋蔵文化 財が数多くあると推測されます。

近年高速道路を主体とする交通体系の整備や、豊かで快適な生活を築くための地域開発が進行しております。これらの開発行為に係る埋蔵文化財保護の基礎となるのが遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査であります。

本報告書は、平成3年度国庫補助事業として実施した、奥羽山麓農免農道整備事業・県道上郷仁賀保線建設事業・曲田地区農免農道整備事業などの分布調査と、東北横断自動車道東和秋田線建設事業・秋田外環状道路建設事業・国道103号道路改良事業・小滝阿仁前田停車場線地方道改良事業などの遺跡範囲確認調査の結果をまとめたものであります。これらの遺跡は、具体的に開発事業が計画されている区域内にあるため、埋蔵文化財保護の立場で早急に対処したいと考えております。

最後になりましたが、これらの調査に協力いただきました関係各機関に厚く御礼を申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきましてご協力下さいますようお願い申し上げます。

平成4年3月30日

秋田県教育委員会 _{教育長} 橋 本 顕 信

例 言

- 1 本書は、平成3年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て実施した、遺跡分布調査と遺跡 範囲確認調査の報告書である。
- 2 本書に掲載の遺跡分布調査・範囲確認調査は、主に秋田県教育庁文化課・秋田県埋蔵文化 財センターの職員が担当した。報文は、各調査担当者が作成したものを、秋田県埋蔵文化財 センターが編集した。
- 3 遺跡分布調査のうち、県営公害防除特別土地改良事業に係る土取り事業と小滝阿仁前田停 車場線地方道改良事業は、調査の結果、路線区内及び事業区内に遺跡が確認されなかったの で、本報告から除外した。
- 4 遺跡範囲確認調査のうち、東北横断自動車道東和秋田線建設事業に係る新町遺跡、中島遺跡、力石 II 遺跡、県営圃場整備事業に係る白坂遺跡は、調査の結果、調査区内から遺構などが確認されなかったので、本報告から除外した。
- 5 報告書に使用した地図は、秋田県教育委員会発行の『秋田県遺跡地図』(県南版・中央版・県北版)、建設省国土地理院発行の25,000分の1地形図と、日本道路公団・建設省・秋田県土木部が作成した1,000分の1の地図、秋田県農政部が作成した500分の1の地図である。

目 次

序	
例言	
第1章 はじめに	 1
第2章 平成3年度遺跡分布調查・遺跡範囲確認調査実施要項	 1
第1節 遺跡分布調査	 1
第2節 遺跡範囲確認調査	 2
第3章 調査の記録	 5
第1節 遺跡分布調査	 5
1 雄平地区圃場整備事業に係る農業用水管敷設事業	 5
2 奥羽山麓農免農道整備事業	 6
3 県道上郷仁賀保線建設事業	 6
4 曲田地区農免農道整備事業	 6
第2節 遺跡範囲確認調査	 10
1 東北横断自動車道東和秋田線建設事業	 10
岩瀬遺跡	 10
虫内Ⅱ遺跡	 14
越上遺跡	 18
茂竹沢遺跡	 21
2 秋田外環状道路建設事業	 26
片野Ⅰ遺跡	 26
3 一般国道7号琴丘能代道路建設事業	 31
館の上遺跡	 31
4 国道 103 号道路改良事業	 36
池内遺跡	 36
萩の台Ⅱ遺跡	 42
5 県道田山花輪線道路改良事業	 46
天戸森遺跡	 46
6 曲田地区農免農道整備事業	 50
野沢岱遺跡	 50

7

桂の沢遺跡

小滝阿仁前田停車場線地方道改良事業 … 54

..... 54

第1章 はじめに

国庫補助を得て実施した平成3年度の遺跡詳細分布調査は、雄平地区圃場整備事業に係る農業用水管敷設事業・奥羽山麓農免農道整備事業・県道上郷仁賀保線建設事業・曲田地区農免農道整備事業・県営公害防除特別土地改良事業に係る土取り事業・小滝阿仁前田停車場線地方道改良事業の遺跡分布調査と、東北横断自動車道東和秋田線建設事業・秋田外環状道路建設事業・一般国道7号琴丘能代道路建設事業・国道103号道路改良事業・県道田山花輪線道路改良事業・曲田地区農免農道整備事業・小滝阿仁前田停車場線地方道改良事業・県営圃場整備事業に係る遺跡範囲確認調査である。これらの調査は、既に策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁文化課、秋田県埋蔵文化財センターの職員、それに大館市教育委員会の専門職員の協力を得て、平成3年4月から12月にかけて実施したものである。

第2章 平成3年度遺跡分布調查。遺跡範囲確認調查

第1節 遺跡分布調香

1 調査の目的

開発予定地内を踏査して、遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

2 調査の方法

- (1) 計画地域の範囲内で遺物の表面採集及び試掘調査を実施して、遺跡の所在を確認する と共に、遺跡の性格についても可能な限り把握する。
- (2) 調査の期間はおおむね1週間以内とし、現地の情報も活用する。
- (3) 確認された遺跡は地図に記入し、記録は現地で行う。
- (4) 遺跡の現況、遠景を写真記録し、遺跡に至るまでの経路、目標等も記録する。
- (5) 使用する地図は、25,000分の1地形図と開発部局で作成した図面とする。

3 事業主体者

秋田県教育委員会

4 調査主体者

秋田県教育庁文化課

学芸主事 熊谷 太郎

大館市教育委員会生涯学習課

主査

板橋 範芳

5 調査対象地域及び事業名

No.	事 業 名	調査期間	調査結果等
1	雄平地区圃場整備事業 に係る農業用水管敷設 事業(羽後町)	平成3年11月22日、28日	事業区域内に周知の遺跡 1 箇所を 確認。
2	奥羽山麓農免農道整備 事業(六郷町・仙南村)	平成3年6月27日~28日、 12月12日	路線に係る周知の遺跡 2 箇所を確 認。
3	県道上郷仁賀保線建設 事業(仁賀保町)	平成3年3月26日、 11月30日	路線に係る新発見の遺跡 1 箇所を 確認。
4	曲田地区農免農道整備 事業(大館市)	平成3年11月22日、28日	路線に係る周知の遺跡 2 箇所と新 発見の遺跡 2 箇所を確認。
5	県営公害防除特別土地 改良事業に係る土取り 事業(羽後町)	平成3年5月11日、 12月5日	事業区域内に遺跡は確認されなかった。
6	小滝阿仁前田停車場線 地方道改良事業 (森吉町)	平成 3 年12月10日	計画路線の一部について試掘を実施。調査対象区間内に遺跡は確認 されなかった。

第2節 遺跡範囲確認調査

1 調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の範囲確認調査を実施して、埋蔵文化財の保護と保存を図る。

2 調査の方法

- (1) 遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために、当該地域で遺物の表面 採集及び小規模の発掘調査(遺構確認面までの掘り下げ)を行う。
- (2) 調査の期間をおおむね $2 \sim 12$ 日間とし、その期間内にできるかぎり面的に発掘調査を 広げて遺構の確認に努める。
- (3) 確認された遺構・遺物、堆積土の厚さ、遺物包含層などの記録は現場で行う。その際、 遺跡の全景と発掘調査状況、確認された遺構・遺物などは必ず写真撮影をする。
- (4) 使用する地形図は開発部局で作成した一番大きな縮尺図面とし、新規に測量などは行わない。
- (5) 遺跡の立地条件などに即した適切な調査をする。

3 事業主体

秋田県教育委員会

4 調査担当者

秋田県埋蔵文化財センター

学芸主事 大野憲司、利部修、高橋学、谷地薫、武藤祐浩

文化財主查 庄内昭男、桜田 隆

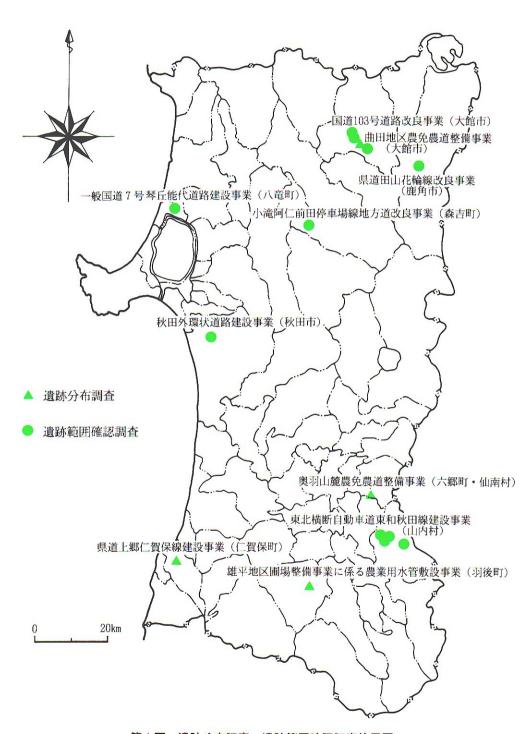
文化財主任 柴田陽一郎、高橋忠彦、小林克

文化財主事 栗澤光男

非常勤職員 小山内 透、石川恵美子、藤岡光男、石川真一、工藤 晃

5 事業名・調査対象遺跡・調査期間・調査担当者ほか

No.	事 業 名	遺跡名・所在地	調査期間	調査担当者	摘 要
1	東北横断自動車道	新町遺跡 (横手市)	平成3年4月15日 ~4月17日	利部 修 栗澤 光男	調査区内は遺跡と 認定できず
	東和秋田線建設事業	岩瀬遺跡(山内村)	平成3年4月22日 ~4月26日	利部 修 石川恵美子	
		虫内Ⅱ遺跡(山内村)	平成 3 年 4 月22日 、~ 4 月26日	大野 憲司 高橋 忠彦 栗澤 光男	
		中島遺跡(山内村)	平成3年4月22日 ~4月26日	利部 修 石川恵美子	調査区内は遺跡と 認定できず
		力石Ⅱ遺跡(山内村)	平成3年4月22日 ~4月26日	大野 憲司 工藤 晃	調査区内は遺跡と 認定できず
		越上遺跡(山内村)	平成3年5月8日 ~5月10日	高橋 忠彦 工藤 晃	
		茂竹沢遺跡(山内村)	平成3年5月8日 ~5月15日	武藤 祐浩 石川恵美子	
2	秋田外環状道路建設事業	片野I遺跡(秋田市)	平成3年9月24日 ~10月11日	庄内 昭男 小林 克	
3	一般国道 7 号琴丘能代 道路建設事業	館の上遺跡(八竜町)	平成 3 年10月15日 ~10月28日	小林 克	
4	国道 103 号道路改良事業	池内遺跡(大館市)	平成3年9月24日 ~9月27日	桜田 隆 小山内 透 藤岡 光男	
		萩ノ台Ⅱ遺跡(大館市)	平成3年9月30日 ~10月1日	桜田隆小山内透藤岡光男	
5	県道田山花輪線道路改良 事業	天戸森遺跡(鹿角市)	平成 3 年10月14日 ~10月16日	高橋 学石川 真一	
6	曲田地区農免農道整備 事業	野沢岱遺跡(大館市)	平成 3 年10月21日 ~10月22日	柴田陽一郎	
7	小滝阿仁前田停車場線 地方道改良事業	桂の沢遺跡(森吉町)	平成 3 年10月21日 ~10月24日	谷地 薫	
8	県営圃場整備事業	白坂遺跡(森吉町)	平成3年11月13日	谷地 桜田 柴田陽一郎 小山内 藤岡 光男	調査区内は遺跡と 認定できず



第1図 遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査位置図

第3章 調査の記録

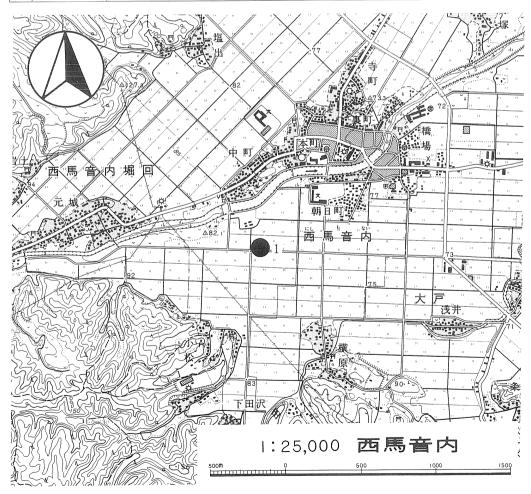
第1節 遺跡分布調査

1 雄平地区圃場整備事業に係る農業用水管敷設事業

羽後町南西馬音内地内における農業用水管敷設事業計画で、本年度はこの内、0.752kmについて試掘を行ったものである。

調査の結果、周知の遺跡1箇所が事業計画地内に位置することを確認した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代 等	現況	備考
1	上谷地遺跡	羽後町字南西馬音内47外	縄文時代	水 田	周知の遺跡



第2図 雄平地区圃場整備事業に係る農業用水管敷設事業地内遺跡位置図

第3章 調査の記録

2 奥羽山麓農免農道整備事業

六郷町から横手市に至る延長13.7㎞の計画路線で、本年度はこの内、六郷町妻の神から仙南村茨島に至る延長4.42㎞について調査を実施した。

調査の結果、周知の遺跡 2 箇所が路線に係ることを確認した。この他、遺跡の占地の可能性が強い地点が 2 箇所認められたが、これらについては後日改めて試掘を行って、遺跡の有無を確認する必要がある。

***************************************	No.	遺跡名	所 在 地	時 代 等	現況	備考
	1	鎧ケ崎Ⅲ遺跡	六郷町六郷東根字鎧ヶ崎27外	縄文時代	水 田	周知の遺跡
	2	前森遺跡	仙南村金沢字乗上31外	平安時代	山林	周知の遺跡

3 県道上郷仁賀保線建設事業

象潟町水岡から仁賀保町院内に至る延長5.84kmの計画路線で、本年度は当面の工事実施計画部分1.86kmについて試掘を行った。

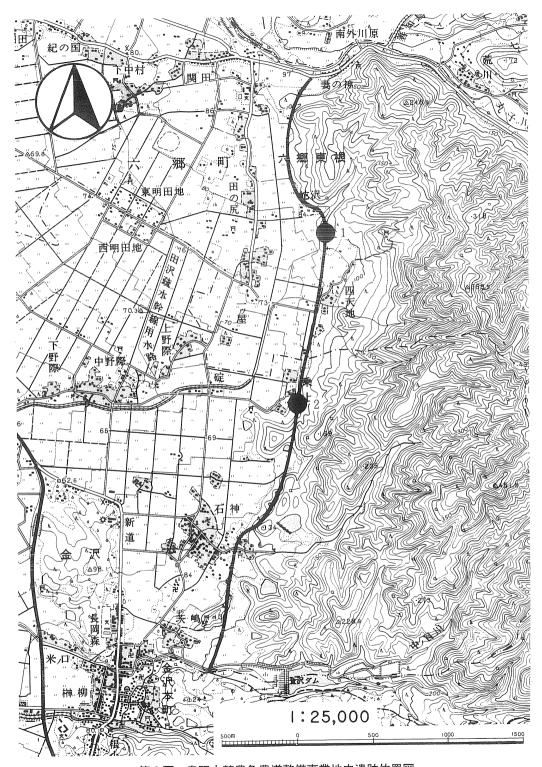
調査の結果、新発見の遺跡1箇所が路線に係ることを確認した。

No.	遺跡名	所	在	地	時	代	等	現	況	備	考
1	メカケ遺跡	仁賀保町院内字。	イカケ60タ	k	平	安時	代	畑	地	新発見	の遺跡

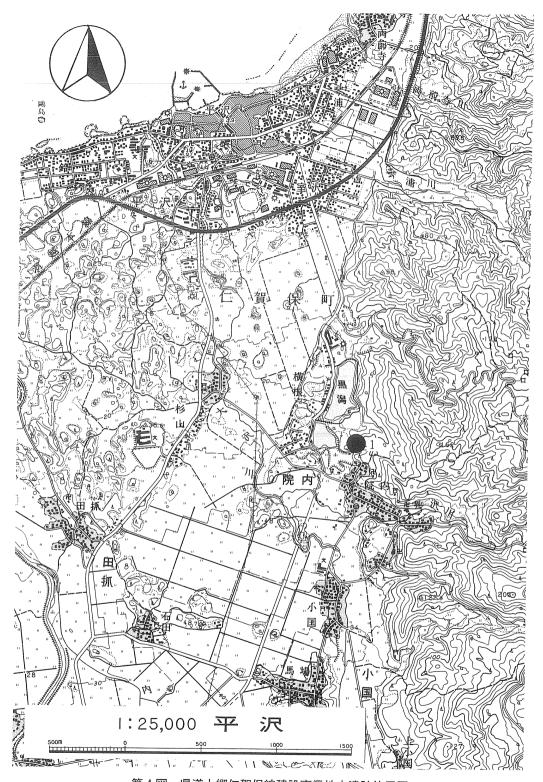
4 曲田地区農免農道整備事業

平成元年度、2年度の調査により路線上に3箇所の遺跡が係ることを確認したが、この他 遺跡の可能性の強い地点が5箇所あり、本年度はこの地点について試掘を行ったものである。 調査の結果、4地点について遺跡に係ることを確認した。なお本年度の調査により、本路 線の分布調査は完了したことになる。

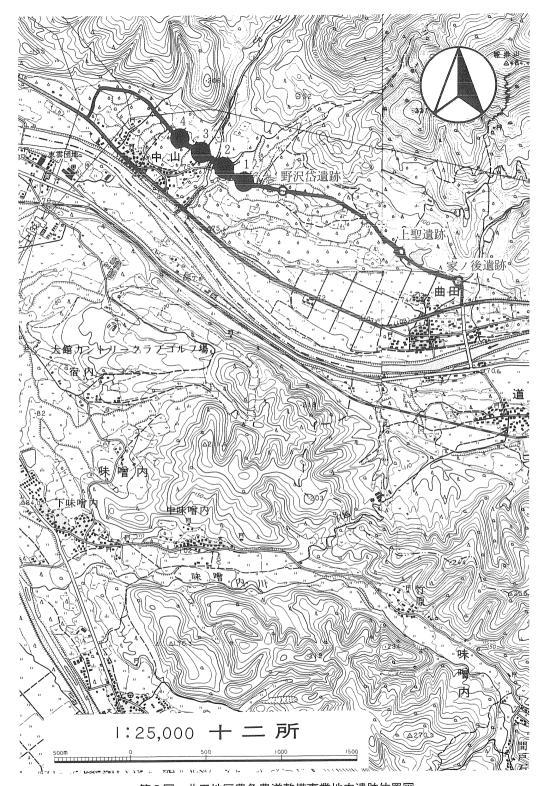
No.	遺跡名	所 在 地	時 代 等	現況	備考
1	冷水山根遺跡	大館市曲田字冷水山根56-1外	縄文時代	果樹園	周知の遺跡
2	寒沢Ⅱ遺跡	大館市曲田字寒沢77-1外	縄文時代(前期)	草 地	新発見の遺跡
3	寒沢遺跡	大館市中山字寒沢83-1外	縄文時代(後期)	果樹園	周知の遺跡
4	中山遺跡	大館市中山字中山31-1外	縄文時代	果樹園	新発見の遺跡



第3図 奥羽山麓農免農道整備事業地内遺跡位置図



第4図 県道上郷仁賀保線建設事業地内遺跡位置図



第5図 曲田地区農免農道整備事業地內遺跡位置図

第2節 遺跡範囲確認調査

1 東北横断自動車道東和秋田線建設事業

^{いゎ せ} 岩瀬遺跡

1 遺跡所在地

平鹿郡山内村十淵字岩瀬144-1外

2 範囲確認調査期間

平成3年4月22日~4月26日

3 範囲確認調查対象而積

 $4.050 \,\mathrm{m}^2$

4 工事区域内遺跡面積

 $3.700\,\mathrm{m}^2$

5 遺跡の立地と現況

①立地

遺跡は、横手川によって形成された河岸段丘上に立地する。遺跡の南側には、幅約40mほどの横手川の旧河道があり、本遺跡と中島遺跡を画している。したがって遺跡は、南側~西側を横手川の現河道と旧河道に囲まれた南西方向に突き出す形の舌状台地上に立地している。遺跡の標高は、中央部で約103mである。

②現況

現況は水田と畑地である。

6 範囲確認調査の結果

①層序

層序は東側畑地のセンター杭(STA149)付近で、第 I 層盛土、第 II 層旧耕作土、第 III 層茶 褐色土、第 IV 層褐色土、第 V 層漸移土、第 VI 層ローム土となり、地表面からローム上面までの深さは1.1 m、第 III 層から第 V 層までは約50 cmである。ローム上面は、北東側から南西方向に緩やかに下降しており、南西端部では現地表面からの深さが1.8 mである。そして、盛土はローム面の傾斜に沿って厚くなり南西端部での厚さは約1.3 mである。

遺構は、第V層で検出できるものもあるが、確実なプランは第VI層上面で確認される。遺物は、第 $\mathbf{III} \cdot \mathbf{IV} \cdot \mathbf{V} \cdot \mathbf{V}$ I層に散発的に包含されている。

なお、調査区北側部分と西側の低い畑地部分のローム上部は若干削平されているが、土坑等の遺構の殆どは残存しているものと考えられる。

②検出遺構と遺物

遺構は、土坑4基、溝1条、性格不明遺構5基(うち1基はTピットの可能性がある)が、 調査区西辺を除く全域に検出されている。また、調査区中央西側で、ローム層にくい込んで 径約15cmの石核や大型剝片が、径1mの範囲に集中して検出された。

遺物は、土器が貝殻沈線文土器(早期)・羽状縄文土器(前期)や晩期の土器片、石器がそれらの時期に伴うと思われる石核、尖頭器、石箆、石斧、凹石、剝片が出土している。ただし、晩期の土器は盛土中のものである。

7 所見

①遺跡の種類

遺跡は、縄文時代早期・前期主体の集落跡(住居跡は未検出)で、草創期・晩期の遺物散布地の可能性もある。

②遺跡の範囲と工事区域

本遺跡は、南側が中島遺跡との間にある旧河道、西側が横手川によって画された、南西側に張り出す大きな舌状台地となっている。北側および東側がどのくらいまで広がるか正確には不明であるが、工事区域外東側にあるビニールハウス建設時に、縄文土器・石器の他に大きな河原石も見つかっていることから、遺跡は東西120m以上、南北100m以上の広範な広がりをもつものと推定される。

工事区域は、舌状台地の先端部で、(大きな面積を持つ集落跡と予想される)岩瀬遺跡の 南西縁辺部に当たる。

なお、工事区域西端部には遺構・遺物共に認められなかったため、その部分は調査対象面 積から除外した。したがって、工事区域内遺跡面積は、当初予想された面積よりも僅かに減 少している。

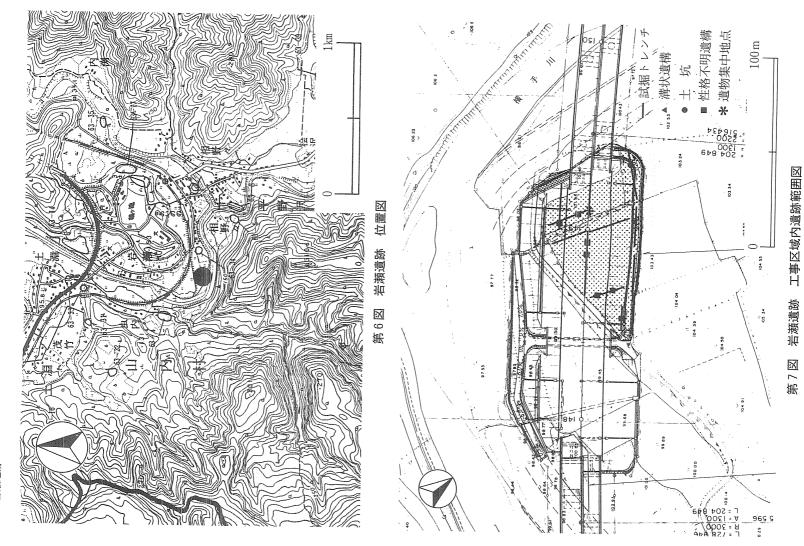
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

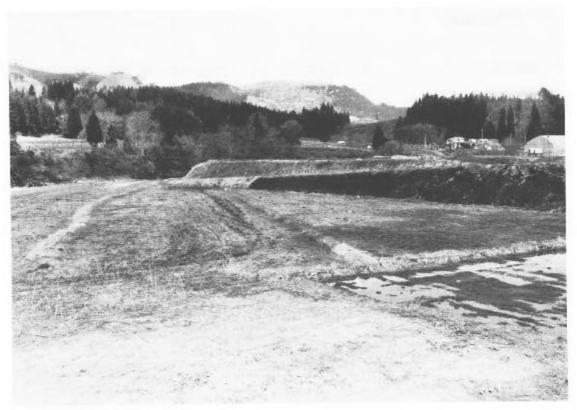
工事区域内の南西側からは性格不明の遺構群や石器集中部分が、北西側からは土坑群が、 各々10基以上検出されると予想される。

遺物は、縄文時代早期・前期の土器・石器を主体にし、これに草創期・晩期の遺物も出土 する可能性がある。

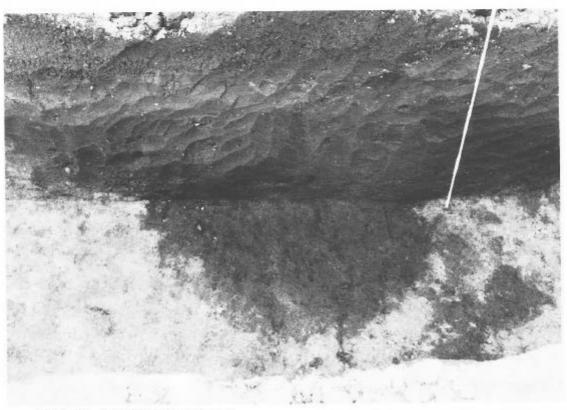
8 参考事項

本遺跡のうち工事に係る部分の一部(1,580㎡)は、平成3年5月27日から11月22日まで発掘 調査を実施した。尚、発掘調査の結果、工事区域内の遺跡範囲が西側に広がることが判明し、 合計4,180㎡となった。残りの2,600㎡は平成4年度発掘調査の予定である。





岩瀬遺跡 遠景(東から)



岩瀬遺跡 土坑検出状況(北から)

虫内Ⅱ遺跡

^{むしない} 虫内Ⅱ遺跡

1 遺跡所在地 秋田県平鹿郡山内村土淵字虫内17-1外

2 範囲確認調査期間 平成3年4月22日~4月26日

3 **範囲確認調査対象面積** 2,400 ㎡

4 工事区域內遺跡面積 2.800 m²

5 遺跡の立地と現況

①立地

虫内Ⅱ遺跡は、奥羽山脈の西側山地を縫うようにして西流する横手川の左岸段丘上にあり、 JR相野々駅の西約700mに位置している。

山内村南郷方面から西流してきた横手川は、虫内集落の東側で流路をほぼ直角に北に変える。遺跡は、この屈曲部西側に位置し、遺跡の南側と西側に迫る山地の山懐に抱かれるように所在している。遺跡の立地する低段丘面は、微視的には南西側がやや高く北東側に漸移的に低くなるが、ほぼ平坦である。遺跡の標高は、北西端で112m、中央部で109m、南東端で106mである。遺跡の南側には、小さな沢を隔てて虫内I遺跡が立地している。

②現況

遺跡の現況は、植林された杉林で、伐採済みである。

6 範囲確認調査の結果

①層序

遺跡の層序は、部分的に異なる箇所が見られるが、調査区中央部ではおおよそ以下の通りである。第 I 層は黒褐色土(層厚 $11\sim20\,\mathrm{cm}$)の表土。第 II 層は黒褐色土~暗褐色土(層厚 $8\sim22\,\mathrm{cm}$)で、調査区北西側では黒色土(層厚 $40\sim70\,\mathrm{cm}$)である。本層に縄文土器片、石器、フレークなどの遺物が含まれている。第 III 層は褐色土(層厚 $3\sim10\,\mathrm{cm}$)で、地山漸移層である。第 IV 層は明褐色土で小礫を含む地山である。調査区北西端部の第 I 層~第 IV 層の層厚は、他の箇所の $2\sim3$ 倍の厚さがある。

②検出遺構と遺物

調査は、範囲確認調査対象地に、幅1mのトレンチを7本入れて調査を行った。その結果、時期不明の幅15~30cmの溝1条、炭を多く含む土坑1基、幅1.5m前後の溝状の落ち込み1基などが確認され、縄文時代(時期不明)の土器片、石器、フレークなどが少量出土した。

7 所見

①遺跡の種類

本遺跡は、縄文時代の遺物散布地である。

虫内 I 遺跡は、縄文時代後期〜晩期の墓域を主体とする遺跡であるが、小さな沢を隔てた本遺跡までは、墓域は及んでいないと考えられる。

②遺跡の範囲と工事区域

遺跡は、南側が小さな沢、北西側が急な斜面、北側が湿地で画されており、その範囲は南西-北東約90m、南東-北西約70mの範囲と考えられる。工事区域は、遺跡中央部を横断しており、遺跡の中央部が調査対象地である。

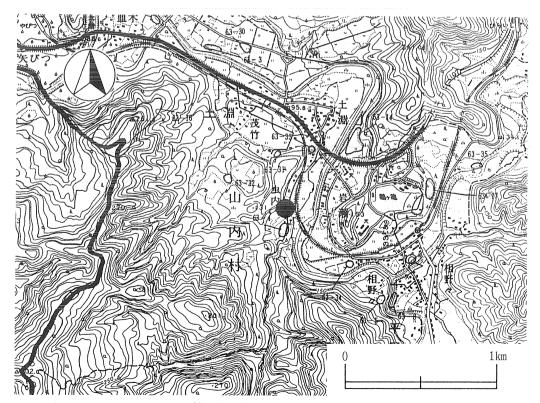
なお、当初の範囲確認調査対象地は、西側の境界がSTA152+90m付近に限られていたが、 実際にはその西側にも若干平場が存在していた。このため、この部分もトレンチ調査したと ころ、遺物が出土した。このことから、工事区域内の遺跡面積が400㎡ほど増えることとなっ た。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

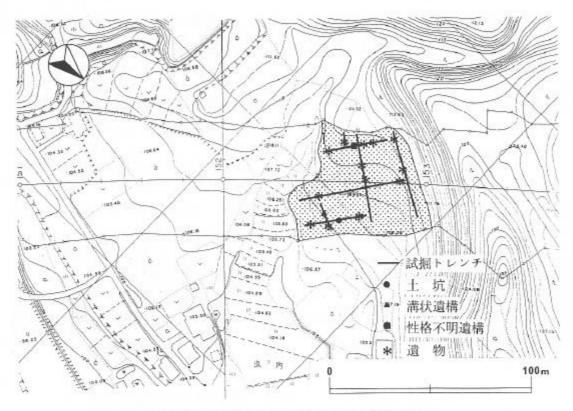
予想される遺構は、時期不明の溝跡や土坑の他に、縄文時代の土坑数基で、遺物は縄文時代の土器、石器が出土するものと考えられる。

8 参考事項

本遺跡のうち工事に係る部分は平成3年5月20日~7月26日まで発掘調査を実施した。



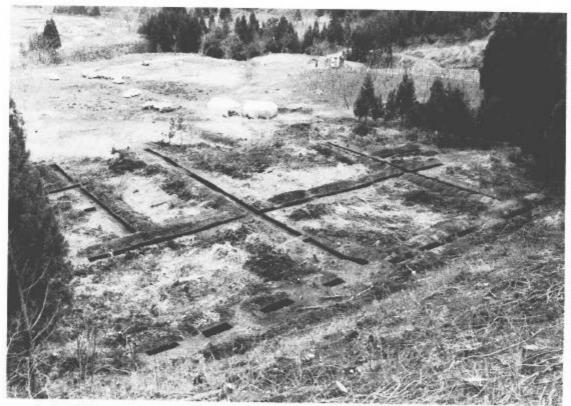
第8図 虫内Ⅱ遺跡 位置図



第9図 虫内Ⅱ遺跡 工事区域内遺跡範囲図



虫内Ⅱ遺跡 近景(東から)



虫内Ⅱ遺跡 調査状況(北西から)



越上遺跡

_{こしがみ} 越上遺跡

1 遺跡所在地 秋田県平鹿郡山内村黒沢字越上45外

2 範囲確認調查期間 平成3年5月8日~平成3年5月10日

3 節囲確認調查対象面積 702㎡

4 **工事区域内遺跡面**積 250 ㎡

5 遺跡の立地と現況

①立地

遺跡のある山内村は、奥羽山地の西麓に当たり、横手川・黒沢川などによって形成された段丘面に集落の点在する散村である。この段丘面には、国道107号線とJR北上線が交差しながら東西に走っており、遺跡は、JR黒沢駅から西へ1.3km、岩手県境までは約3kmの地点に位置している。

奥羽脊梁山脈の分水嶺を源とする黒沢川は、西北に流れた後、黒沢地区に入って大きく蛇 行を繰り返し、随所に舌状の段丘面を形成しており、本遺跡もこの黒沢川右岸の段丘面に立 地している。

遺跡のある段丘面は、蛇行する黒沢川によって南・東・西を囲まれた舌状地形を呈し、標高205m前後の低位の段丘面と標高210mほどの高位の段丘面とからなる。低位の段丘面南側は黒沢川に面し、高位段丘面は北側に行くにつれて高くなっている。また黒沢川を挾んで遺跡の対岸には標高483mの大穴峠の急崖な北壁が迫っている。範囲確認調査の対象地域は、舌状の段丘面の南側で、高位の段丘面から低位の段丘面を含む地域である。

②現況

遺跡の現況は、杉の人工林であるが、調査対象地域は既に伐採してある。

6 節用確認調査の結果

①層序

遺跡の層序は、低位の段丘面では、I層川砂層(層厚150cm)、II層砂礫層(地山)で、黒色土層は存在していない。

高位段丘面の層序は、中央部の最も深い部分で I 層黒褐色土層(層厚30cm)、Ⅱ 層褐色土層(15cm)、Ⅲ 層暗褐色土層(50cm)、Ⅳ 層黄褐色砂質土(50cm)、 V 層褐色土+黄褐色砂質土(50cm)、 VI層砂礫層(地山)であるが、北側と南側とでは様相を異にしている。

北側では I 層~IV 層が存在し、VI 層の地山までは深さ70 cm ほどで、一方の南側では、 I ~ II 層が存在し地山までは深さ50 cm ほどである。このように、南北で土層の堆積状況が異なるのは、中央部の沢状の深い部分が、従来黒沢川の流路であったことによるものと考えられる。

②検出遺構と遺物

調査は、幅1mのトレンチを南北に3本、東西に1本を設定して行い、低位の段丘面からは遺構・遺物とも検出されなかった。高位の段丘面では北側を中心とする地域から、IV層上面において人頭大の礫を配した土坑1基を確認しており、遺物もこの地域で基本層序Ⅲ層より縄文時代後期前半の土器片とともに石鏃・石匙・フレイクが出土した。

7 所見

①遺跡の種類

本遺跡は、土坑の在り方から縄文時代後期の墓域と考えられる。

②遺跡の範囲と工事区域

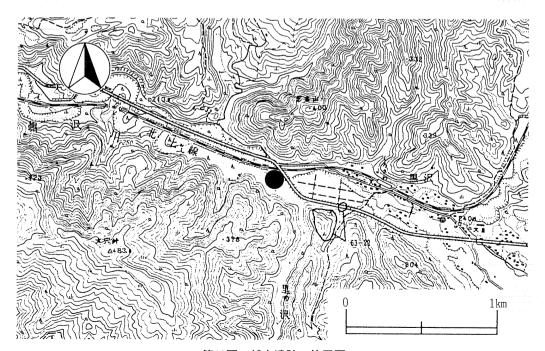
本遺跡の範囲は黒沢川によって東・南・北を囲まれた舌状の高位の段丘面一帯約5,800㎡と 考えられ、このうち横断道建設事業に係る調査を必要とする範囲は遺跡の南端に当たる地域 である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

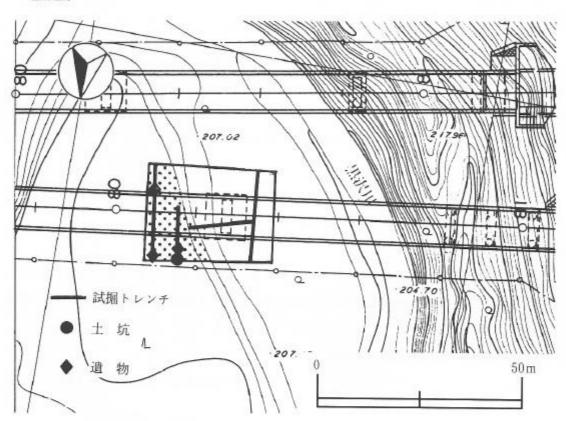
予想される遺構は、縄文時代後期前半の土坑で、遺物は縄文時代後期前半の土器・石器などが出土するものと考えられる。

8 参考事項

本遺跡のうち工事に係る部分は平成3年6月5日~6月21日まで発掘調査を実施した。



第10図 越上遺跡 位置図



第11図 越上遺跡 工事区域内遺跡範囲図



越上遺跡 調査状況 (北西から)

茂竹沢遺跡

1 遺跡所在地 秋田県平鹿郡山内村土淵字茂竹沢12外

2 範囲確認調査期間 平成3年5月8日~5月15日

3 範囲確認調査対象面積 4,900㎡

4 工事区域内遺跡面積 2,800㎡

5 遺跡の立地と現況

①遺跡の立地

茂竹沢遺跡は、山内村の西部、JR相野々駅の北西約1.3㎞にある。山内村は奥羽山脈の西 部にあって、山深く村域の約87%が山林と原野である。集落は奥羽山系に源を発する横手川・ 黒沢川・松川・武道川の4河川の河岸段丘上に点在する。この村の中央部をほぼ東西に横断 する国道107号線(平和街道)も主として黒沢川の形成した河岸段丘上を通っている。横手市 と北上市を結ぶこの国道を、横手市から東に向かうと、右側に茂竹集落に至る標識がある。 ここで右折すると、道は緩やかな傾斜をもって国道より一段高い段丘に上り、踏切を越える と茂竹集落がある。遺跡名となっている茂竹沢は、この集落の後方にある幅40m程の沢であ る。大館山(標高261m)の東裾にあたるこの沢は、横手川が形成した高位段丘の北縁を北東 から南西方向に開析したもので、沢の南側には良好な台地が形成されている。遺跡は、茂竹 沢に面する大館山の東側斜面の末端にある。この付近では幾筋もの小さな沢が入り、尾根と 沢が入り組んだ地形を呈している。今回の調査区は、北東と南西側を小さな沢に挟まれた尾 根と、この尾根の斜面下方の小さな平場に立地している。標高142mを測るこの尾根の先端は、 さらに南側から入り込んだ小さな沢によって画された東西23m、南北15m稈の広がりをもつ 標高125mの高台となっている。またこの小さな沢の上端は、尾根と高台の間で痩せた尾根状 を呈し、その北側で東西20m、南北30m、標高123m前後の平場となっている。さらに斜面下 方の平場は、標高115mで40m四方の広さであるが、この平場から尾根にかけては急激な斜面 となっている。

なお、大館山は皿木館として中世城館に登録された遺跡であり、茂竹沢を挟んで対岸の台地上には小田遺跡群が立地している。

(2)現況

遺跡の現況は杉林である。工事範囲は既に伐採されていたが、調査区内はその枝や、不要 となった伐採木で覆われていた。

6 範囲確認調査の結果

①層序

茂竹沢遺跡

遺跡内の基本層序は、STA159杭付近で調査区を北東→南西方向に横断する第2・3トレンチで、第 I 層表土(層厚 $10\sim20\,\mathrm{cm}$)、第 I 層暗褐色土(層厚 $20\sim40\,\mathrm{cm}$)、第 I 層褐色土(層厚 $10\sim20\,\mathrm{cm}$)、第 I 層地山である。 I ・ I 層中には木の根が張っている部分が多く、また斜面ではI V層に由来する砂利が混入している。I V層は台地上では混入物の少ない黄褐色のロームであるが、斜面及びその下方では砂利あるいは軽石が多く混入する。 遺物は I ・ I 層中から出土している。 遺構は I 層で確認できるものもあるが、明確には I V層上面が遺構確認面である。このほか急斜面に設定した第 $13\cdot14$ トレンチでは I ・ I 層間に層厚 $20\sim60\,\mathrm{cm}$ の黒色土が存在する部分もあるが、その層での遺物の出土はない。なお、北西側の急斜面の下では少量ではあるが水が染み出てくる部分がある。

②検出遺構と遺物

遺構は、土坑1基、溝跡3条、集石遺構3基、柱穴様土坑1基、性格不明遺構2基のほかピットを検出した。いずれの遺構も時期を特定し得る遺物の出土がなく、時期は不明である。これらの遺構は、痩せ尾根と先端部の高台、及び斜面下方の平場を中心に分布する。このほか痩せ尾根部分ではⅢ層中で、径1m程の範囲にフレークが集中して出土した部分もある。

遺物は、縄文土器片が2片、箆状石器1点、フレーク少量が出土したのみで出土量は少ない。縄文土器の1片は胎土に繊維を含み羽状縄文の施された破片で前期に位置付けられるが、もう1片は底部で胎土に砂粒を含み器厚も薄手であり中期以降のものである。

7 所見

①遺跡の種類

縄文時代の遺物散布地である。遺跡内には頁岩の転石も多く、出土遺物にフレークが多い点を考え合わせると、石器原材料の入手場所的な性格も予想される。また時期の特定できない集石3基と溝跡3条が検出されている点からは、縄文時代以降により、積極的に活用される場所となっていたことが推察される。

②遺跡の範囲と工事区域

今回、調査範囲の北西側にあたる尾根でもフレークの散布が認められた。この点を考慮すると遺跡全体としては、大館山の東側斜面の裾で南東方向にのびる尾根筋を含む東西250m、南北250m程の範囲が予想され、その中に幾つかの中心となる部分がある可能性がある。

工事区域はトンネルの入り口になる部分であり、斜面下方の平坦部分とその東側の高台の一部、及び高台から北西にのびる痩せ尾根部分が含まれている。なお、トンネル入り口の正面にあたる南東向きの急斜面は斜度がきつく遺物の散布も見られないため、調査範囲から除外した。また、第13図に示すとおり調査区東側の高台から続く斜面については、若干の遺構が検出されていることから範囲としたが、密度も薄いことから全面調査の必要は無いと思わ

れる。

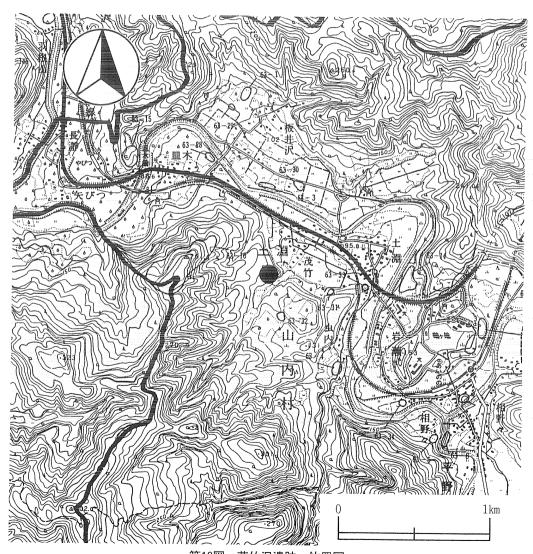
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

調査区南部、斜面下方の平場では、トレンチで検出した集石の他に、地表面に露出した礫群を2箇所で確認している。この点からも、斜面下方の平場では、時期を特定できない集石や溝跡が検出されるものと予想される。この外、遺物の散布に対応し、調査区全体から縄文時代の土坑が数基検出される可能性がある。

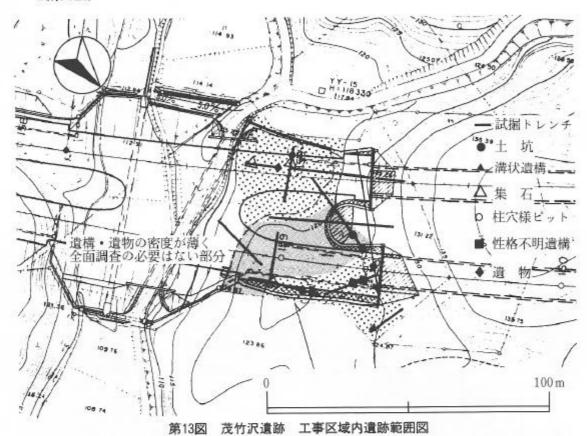
遺物では、縄文時代の土器・石器が出土するものと考えられる。

8 参考事項

本遺跡のうち工事に係る部分は、平成3年7月29日~10月31日まで発掘調査を実施した。



第12図 茂竹沢遺跡 位置図





茂竹沢遺跡 近景(南東から)



茂竹沢遺跡 南側平坦部の集石遺構検出状況(西から)



茂竹沢遺跡 南側平坦部のピット検出状況 (東から)

2 秋田外環状道路建設事業

かたの **片野** I 遺跡

1 遺跡所在地 秋田県秋田市金足上新城中字片野295

2 範囲確認調査期間 平成3年9月24日~10月11日

3 範囲確認調査対象面積 31,000㎡

4 工事区域内遺跡面積 27,000㎡

5 遺跡の立地と現況

①立地

片野 I 遺跡は秋田市の北郊上新城地区、JR土崎駅から北東4.3㎞の地点にある。秋田市街北部土崎地区の東側には太平山地西麓丘陵からのびる標高40~80mの台地が、新城川およびその支流の道川によって開析されて沖積地に半島状に突き出している。遺跡はこの台地の付け根に近い南西縁に立地する。遺跡のある台地の南西縁は沖積地に向かって開く細かな沢によって鋸歯状の地形を呈する。秋田外環状道路の路線予定範囲にかかる部分にもこの沢の先端部分がいくつも達しており、全体に起伏の激しい地形である。

②現況

路線予定範囲にかかる遺跡部分のうち、僅かに認められる低平地並びに緩斜面はかつて耕作地として利用されていたが、現在は放置され葦や潅木の茂る荒れ地となっている。また北東側の高い部分については、杉の植林地として利用されていたが秋田外環状線の建設計画の実施に伴ってその伐採は完了している。

6 範囲確認調査の結果

(1)層序

I層表土層(層厚10~15cm)、Ⅲ層黒褐色~暗褐色土、旧表土層(層厚15cm)、Ⅲ層黒褐色~黒色土(層厚30~50cm)、Ⅳ層暗褐色土、遺物包含層(層厚10~15cm)、V層黄褐色粘土層(基盤層)である。調査区内の起伏の多さに対応して表土以下基盤層までの厚さも多様である。緩斜面、および台地の高い部分では表土以下基盤層までの土の堆積は薄く、対して沢に面した部分は1m以上の厚さとなって堆積している。また、路線中心杭№22の東側は湧水も認められる半沼沢地である。なお縄文時代の遺物はⅢ層中下部から、交互刺突文の土器及び蓋形土器はⅢ層上部に包含され、須恵器杯はⅢ層上面での出土である。

②検出遺構と遺物

路線中心杭No.19南西側のトレンチで焼土遺構1基、No.20北東側のトレンチで溝1条、同じ

くNo.20の北東端でTピット1基、No.32付近に設けた東西方向のトレンチで土坑1基、No.35中心杭近くとその東側で土坑1基ずつを検出した。出土した遺物は縄文前期、中期、晩期、弥生・続縄文初期、弥生・続縄文後期、平安時代の各時期にわたる土器と石器(フレイク)である。これら遺物の総量はコンテナにして2箱分である。

7 所見

①遺跡の種類

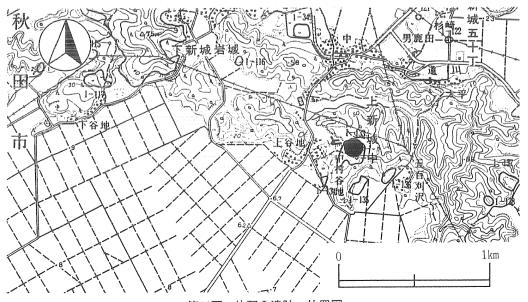
縄文時代前期、中期、晩期、弥生・続縄文初期、後期、古代の各時期の小規模な集落跡であろうと推定される。

②遺跡の範囲と工事区域

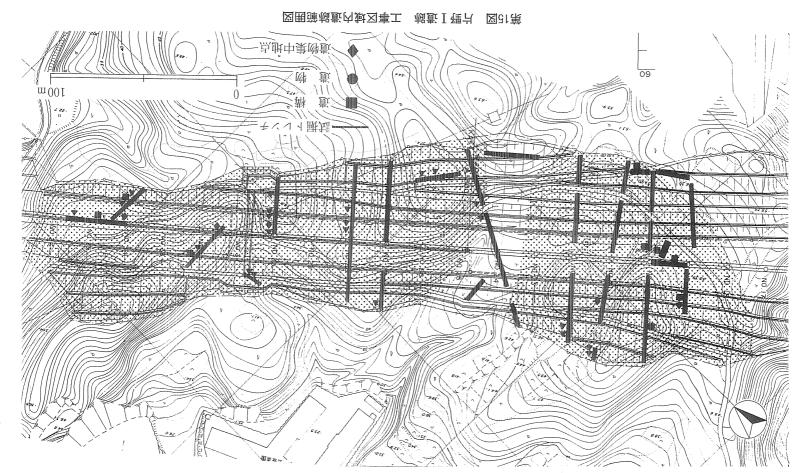
台地の北東縁から南西縁までの全域が遺跡の範囲である。路線中心杭No.23からNo.24の間が、 後世耕作地とするための削平を確認した外は、遺跡は破壊を受けていないことを確かめてい る。したがって、調査はこの路線中心杭No.23からNo.24の周辺を除いた台地全域である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

地形的に広い空間が存在せず、居住域は沢に面する狭小な低平地にごく小さな単位で営まれていたことが予測されるが、周辺の斜面も堅果類などの採集地として、また小動物捕獲のための猟場として利用されていたこともほぼ確実で、採集物の貯蔵穴、陥し穴などの施設を検出できる可能性がある。さらに、沢の末端部分、湧水が認められる箇所では豊富な自然遺物の遺存が期待され、遺跡を残した人々の生態環境に対する働きかけを知る格好の情報が得られることも確かである。



第14図 片野 I 遺跡 位置図



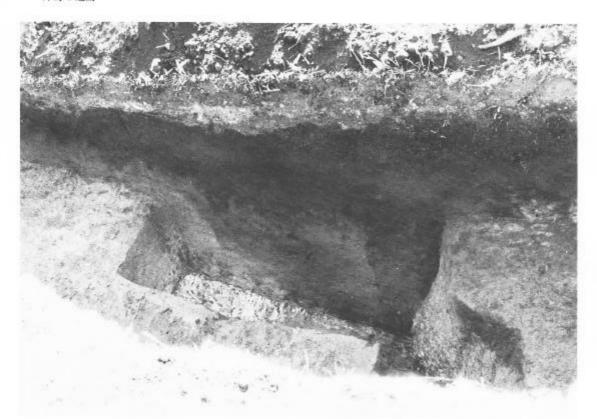
- 78 - -



片野 I 遺跡 全景(北西から)



片野 I 遺跡 No.27南西側トレンチ(北東から)



片野 I 遺跡 No.20中心坑東側トレンチ内溝跡断面(北から)



片野 I 遺跡 No.20中心坑南西側トレンチ土坑検出状況(北東から)

3 一般国道 7 号琴丘能代道路建設事業

^{たてのうえ} 館の上遺跡

1 遺跡所在地

秋田県八竜町鵜川字館の上32-2外

2 範囲確認調査期間

平成3年10月15日~10月28日

3 節囲確認調查対象面積

 $5.100 \,\mathrm{m}^2$

4 丁事区域内遺跡而積

 $5.100\,\mathrm{m}^2$

5 遺跡の立地と現況

①立地

館の上遺跡は八郎潟の北端岸の台地上、JR森岳駅の西4.3kmに位置する。八郎潟の北側には日本海汀線に沿って「成合台地」と呼ばれる海成段丘が南北総延長7km程に連なっている。遺跡はこの成合台地南端の平坦面を空堀によって区切った中世城館である。城館跡の東から北側は沢筋が入り込んでおり、それに面しては急斜面が続いている。一般国道7号琴丘能代道路建設予定路線は、城館跡の東側斜面の一部をかすめるように通っている。

②現況

今回、範囲確認調査を実施した城館跡東側斜面は、中央最高位部がアカシアや笹の生える 雑木林であるが、その南東側及び北東側とも畑地として利用されている。遺跡が営まれた成 合台地は潟西層によって構成されているため砂地の基盤であり、畑部分では一部低い箇所で の湧水も確認されている。

6 範囲確認調査の結果

(1)層序

I 層表土 (耕作土) 層、暗褐色砂~シルト質土層(層厚20~30 cm)、Ⅱ 層黒褐色~暗褐色砂~シルト質土、旧耕作土層(層厚10~30 cm)、Ⅲ 層黄褐色シルト~粘土質土層(基盤層)である。基盤層までの深さは路線内の試掘地点によって差が大きく、最も深い部分では1 mを越える箇所もある。また、耕作が長く継続した地点の土層では旧耕作土面が何枚かに分かれて明瞭に観察できる部分もある。

②検出遺構と遺物

今回試掘を行った地点の中で遺構が確認されたのは1箇所のみである。中央最高位部の北側畑部分に確認された土坑がそれである。径1m程の円形を呈し、内部には暗褐色土と粘土の充填が確認されている。出土した遺物には青磁碗、青磁盤、珠洲系の摺鉢、土師器坏、砥石、鉄製品などがある。



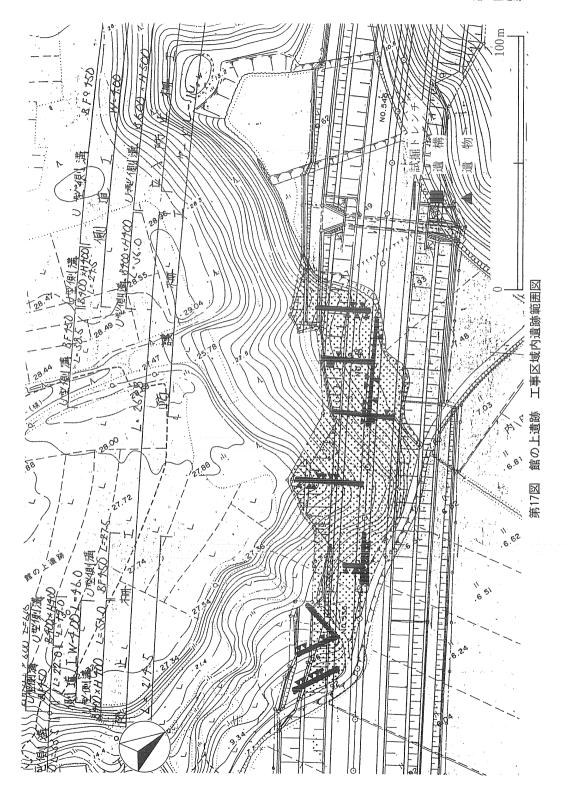
多数知識査時に予想される遺構・遺物 今回の調査で出土した青磁碗、盤など中世域館に特有の遺物出土が予想される。ほかに平 ③発知調査時は予想される遺物、盤など中世域館に特有の遺物出土が予想される。ほかに平

。るれるスぎらのまきかび含い囲

②遺跡の範囲と工事区域 ②遺跡の範囲と工事区域 ②遺跡ではははははははははははで、こうした破壊を受けている。しかし、全体として あれば路線範囲内での遺跡遺存状況は良好で、こうした破壊をうけた部分についても調査範

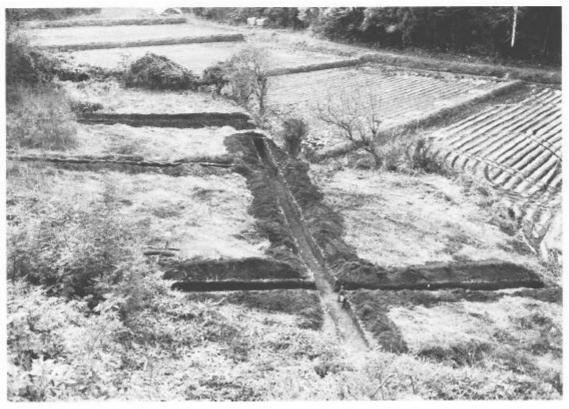
。るれるえぎコ代充祉業構の構置るも重関コ被館練却で面出平い高與一

見而 √





館の上遺跡 遠景(北から)



館の上遺跡 No.539~541中心杭周辺の平場(南東から)



館の上遺跡 No.534~536中心杭周辺の平場(北西から)



館の上遺跡 No.536中心杭付近の土層

4 国道 103 号道路改良事業

ルク遺跡

1 遺跡所在地 秋田県大館市池内字上野56外

2 範囲確認調査期間 平成3年9月24日~9月27日

3 範囲確認調査対象面積 22,768 ㎡

4 工事区域内遺跡面積 12,700㎡

5 遺跡の立地と現況

①立地

池内遺跡は大館市の中心部からやや南、JR東大館駅の南東1.5kmにあり、西流する米代川の右岸に形成された河岸段丘(第3段丘)上に立地する。遺跡付近の第3段丘は、北側を北東方向の長根山(標高200m)南麓から段丘を南西方向に下刻する柄沢、南側を秋葉山(標高328.5 m) 南麓から高森山地を南方向に下刻する餌釣沢により大きく開析され、通称「南ケ丘」と呼ばれている。この「南ケ丘」は小さな下刻作用により、さらに北側の萩ノ台と南側の上野と呼ぶ二つの台地に分けられている。

遺跡は南側の上野の台地に立地し、西側と南側が米代川沖積地に面している。標高は $63\sim65$ m、台地と沖積地の比高は $14\sim16$ mを測る。北側の萩ノ台の台地と、その斜面には萩ノ台 II 遺跡が立地する。

②現況

地目は山林と畑地で、調査対象地の杉林の約半分は既に伐採されているが雑木が繁茂している。畑地部分の約半分は、耕作土の不法採取のため、地山が露出している。

6 範囲確認調査の結果

①層序

I 層表土($15\sim70$ cm)腐植土・耕作土、II 層黒褐色土($10\sim30$ cm)、II 層大湯浮石層($5\sim20$ cm)、IV 層褐色土($10\sim20$ cm)、V 層黒褐色土($30\sim40$ cm)、VI 層黄褐色地山粒混入暗褐色土($20\sim60$ cm)、VII 層地山である。

遺構確認面はⅡ層あるいはIV層の上面である。IV~VI層は斜面に堆積しており、VI層の黄褐色地山粒混入暗褐色土は遺物包含層となっている。

Ⅲ層の大湯浮石層は局部的な堆積である。

②検出遺構と遺物

遺構として竪穴住居跡11軒、土坑24基、種別不明落ち込みプラン10箇所、土器捨て場2箇

所、城館の「犬走り」遺構1箇所、柱穴様ピット多数を検出した。

遺物は、縄文時代前期・中期・後期の土器と石器、平安時代の土器が多数出土した(収納 したのはコンテナ 2 箱分)。

7 所見

①遺跡の種類

調査区の平坦面〜斜面については、縄文時代前期・中期・後期の集落跡と土器捨て場、平 安時代の集落跡の一部であると考えられ、中世になって台地全体が城館として利用されたと 思われる。城館についての伝承と記録はない。

②遺跡の範囲と工事区域

開析谷と空堀で分けられているが、北側の萩ノ台と呼ばれている台地も含めた台地全体と 斜面が遺跡であり、工事区域は南西側の台地と斜面の大部分に及ぶ。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

台地の上部平坦面には、縄文時代前期・中期・後期の集落跡と平安時代の集落跡及び中世の城館跡関連の遺構が、台地斜面には、縄文時代前期・中期の土器捨て場と中世の城館跡関連の遺構が予想される。

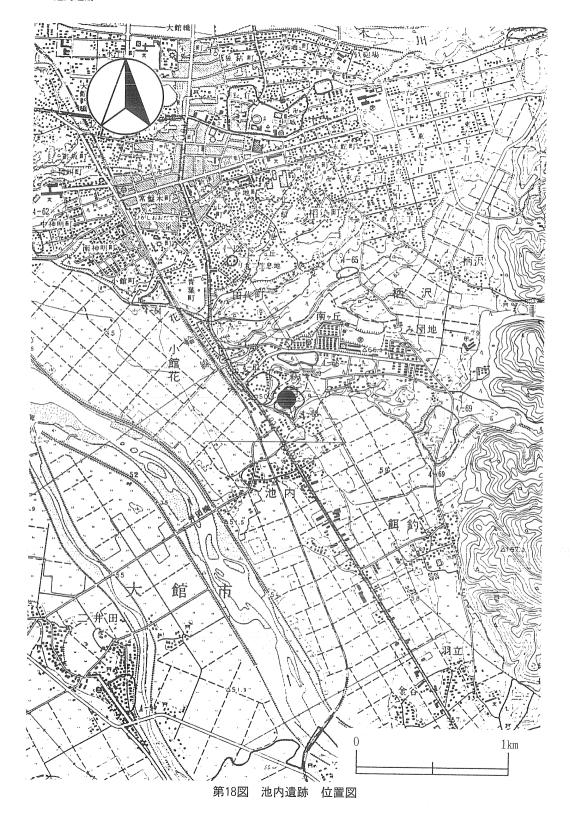
台地斜面の縄文時代前期・中期の土器捨て場では、円筒下層式土器と円筒上層式土器の大量出土が予想される。

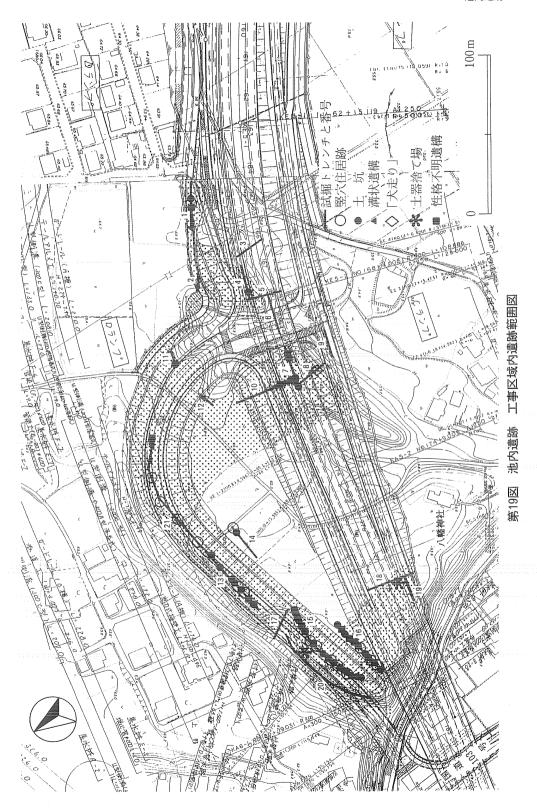
8 参考事項

県立大館桂高校社会部考古班が、1972年に発掘調査を実施し、平安時代の竪穴住居跡 1 軒を精査報告している。

秋田県立大館桂高校社会部考古班 『池内発掘』 1972年

この竪穴住居跡の位置は、今回の範囲確認調査でのNo.16トレンチのあたりであるという。また、池内遺跡は、縄文時代中期の集落跡として知られていたが、たまたま平安時代の竪穴住居跡が検出されたものであるという。(大館市教育委員会板橋範芳氏談)







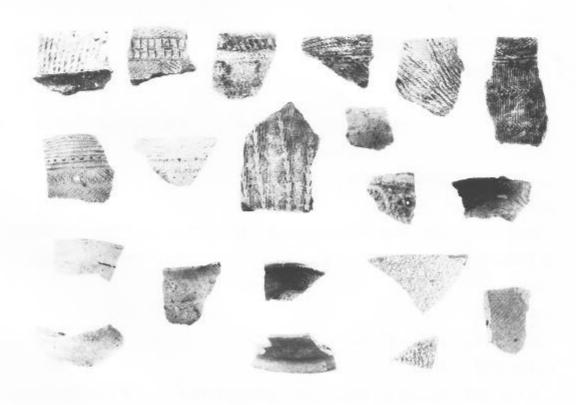
池内遺跡・萩ノ台Ⅱ遺跡 航空写真



池内遺跡 13トレンチ竪穴住居跡群検出状況 (西から)



池内遺跡 18トレンチ捨て場の遺物出土状況 (東から)



池内遺跡 出土土器

萩ノ台Ⅱ遺跡

はぎのだい 萩ノ台Ⅱ遺跡

1 遺跡所在地 秋田県大館市池内字上野28-5

2 範囲確認調査期間 平成 3 年 9 月 30 日 ~ 10 月 1 日

3 **範囲確認調査対象面**積 1,170 ㎡

4 工事区域内遺跡面積 750 ㎡

5 遺跡の立地と現況

① 寸地

萩ノ台Ⅱ遺跡は大館市の中心部からやや南、JR東大館駅の南東1.5kmにあり、西流する米代川の右岸に形成された河岸段丘(第3段丘)上に立地する。遺跡付近の第3段丘は、北側を北東方向の長根山(標高200m)南麓から段丘を南西方向に下刻する柄沢、南側を秋葉山(標高328.5m)南麓から高森山地を南方向に下刻する餌釣沢により大きく開析され、通称「南ケ丘」と呼ばれている。この「南ケ丘」は小さな下刻作用により、さらに北側の萩ノ台と南側の上野と呼ぶ二つの台地に分けられている。

遺跡は北側の萩ノ台の台地と下刻作用によって形成された沢の南面する斜面に立地し、西側が米代川沖積地に面している。標高は63~65m、台地と沖積地の比高は14~16mを測る。

②現況

地目は山林で、杉は既に伐採されているが、雑木が繁茂している。

6 範囲確認調査の結果

①層序

I 層表土(15~20cm)腐植土、Ⅱ 層黒褐色土(40~50cm)、Ⅲ 層大湯浮石層(5~10cm)、IV 層褐色土(20~100cm)、V 層地山である。

IV層の褐色土が遺物包含層である。

②検出遺構と遺物

縄文時代前期・中期・後期・晩期の土器捨て場のみで、遺構は検出されなかった。遺物は 縄文時代前期・中期・後期・晩期の土器・石器が出土した(収納したのはコンテナ1箱分)。

7 所見

①遺跡の種類

縄文時代前期・中期・後期・晩期の土器捨て場である。

②遺跡の範囲と工事区域

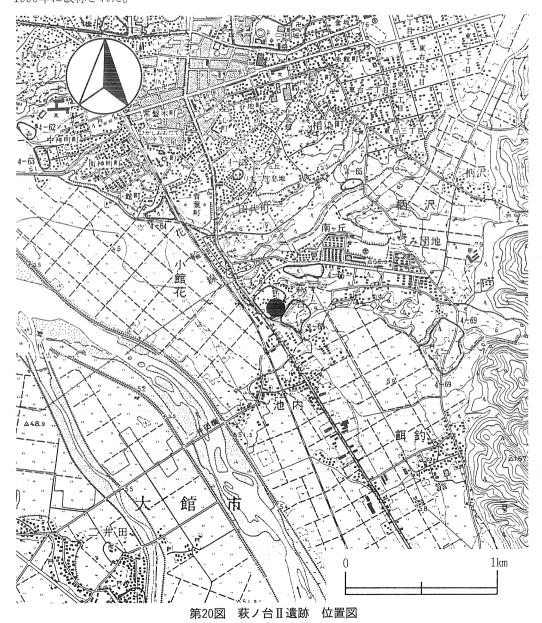
萩ノ台と通称される台地上とその南側斜面が遺跡の範囲であるが、台地上は宅地開発が進 み、斜面も個人による崩落防止工事が実施され、破壊を受けている。工事区域内遺跡範囲は、 台地と斜面の一部である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

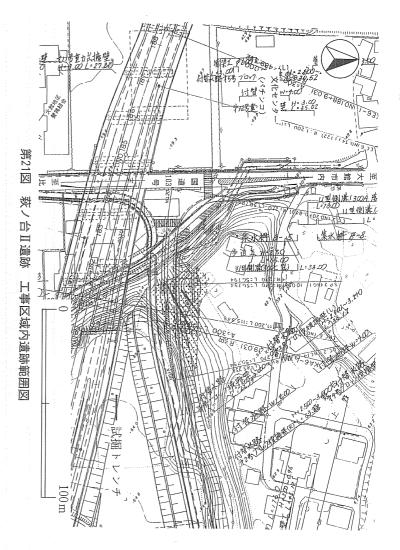
捨て場では、円筒下層式土器の大量出土が予想される。

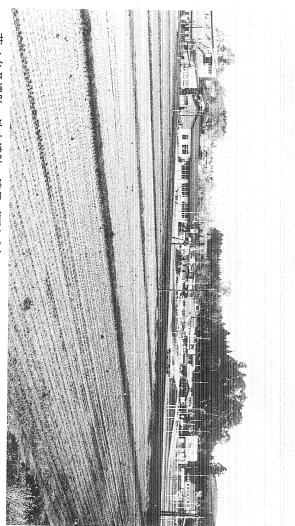
8 参考事項

萩ノ台Ⅱ遺跡の斜面部分は、縄文時代前期前半から後期の土器が厚く層をなして堆積する 「池内B遺跡」の遺跡名で知られ、地元の高校生や小学生が盗掘していた箇所である。遺跡名は 1990年に改称された。

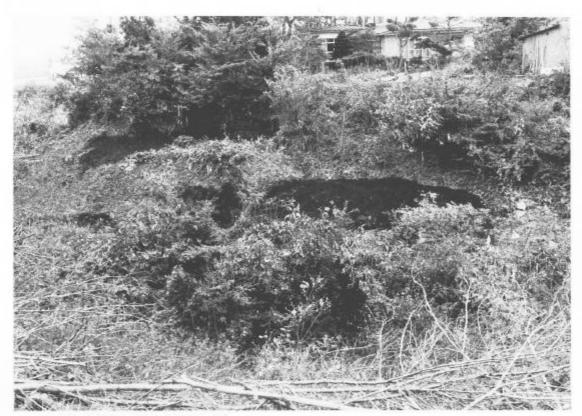


- 43 -





萩ノ台II遺跡・池内遺跡 遠景(西から)



萩ノ台Ⅱ遺跡 近景(南東から)



萩ノ台Ⅱ遺跡 出土遺物

5 県道田山花輪線道路改良事業

てん と もり **天戸森遺跡**

1 **遺跡所在地** 秋田県鹿角市花輪字陣場142-1、花輪字下タ町10-2、

花輪字福士38外

2 範囲確認調査期間 平成 3 年10月14日~10月16日

3 **範囲確認調査対象面**積 4,890 ㎡

4 工事区域内遺跡面積 4,890㎡

5 遺跡の立地と現況

① 立地

天戸森遺跡は鹿角市花輪市街地の北部、JR陸中花輪駅の北北東約1.6kmに位置する。遺跡は北流する米代川の右岸、鳥越段丘と称されている台地上に立地する。天戸森遺跡の所在する台地は長さ約760m、幅約500mを測り、そのほぼ全域が縄文時代から中世の遺跡(黒土館)として周知されている。

今回の調査対象区域は、小高い丘状を呈する台地北端部の狭い平坦部とその前面の急傾斜地および東側の緩斜面~平坦面からなる。標高は頂部平坦面で165mである。眼下の沖積地との比高差は25~30mである。

②現況

調査対象区域の大部分は、樹齢20~70年程度の杉林からなり、東端部の平坦面のみリンゴの木が植栽されていたが、既に伐採、搬出済みである。ただ枝葉の除去はなされていない。

なお、同遺跡の一部(9,160㎡)は、昭和57年に花輪第一中学校建設に伴い、鹿角市教育委員会を調査主体者として発掘調査が実施されている。

6 範囲確認調査の結果

①層序

台地頂部の平坦面では、I 層暗褐色土、表土(10~20cm)、Ⅱ 層黄褐色土、地山となる。 東側の緩斜面では、I 層黒褐色土、砂質シルト(30~80cm)、Ⅱ 層黒色土(15~20cm)、Ⅲ 層 黒褐色土(10~20cm)、Ⅳ 層大湯浮石層(25~50cm)、Ⅴ 層黒色土(20~35cm)、Ⅵ 層黒色土、 地山漸移層(20~30cm)、Ⅵ 層地山である。地山までの深さが最深で195cm、平均の深さが150 cmとなる。

②検出遺構と遺物

調査の結果、縄文時代と考えられる土坑11基、配石遺構1基、溝1条を検出した。 遺物で

は、縄文時代中期の土器を主体として、該期と考えられる石器(磨製石斧など)、剝片が、 また中世かそれ以降の陶磁器、鉄製品(釘か)、鉄塊が出土している。自然遺物では、縄文 時代中期の土器に伴ってシジミのような小さい二枚貝が 2 点見つかった。

遺物の出土量は大型のコンテナで1箱である。

7 所見

①遺跡の種類

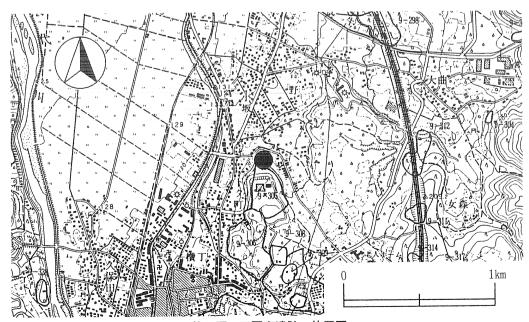
調査区の急傾斜地を除く緩斜面~平坦面は、縄文時代中期の集落跡の一部と考えられ、小規模な捨て場を伴う可能性が考えられる。その後、帯郭の存在から中世に入って台地全体が 城館(黒土館)として利用されたと推定できる。

②遺跡の範囲と工事区域

天戸森遺跡の占地する台地全体が縄文時代中期を主体とする集落跡及び中世の城館として 周知され、今回の詳細分布調査においてもこれを追認できた。工事区域は、台地北端部を対 象とするものであり、従って遺跡の北端部がその調査区域となる。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

調査区平坦面~緩斜面では縄文時代中期を主とする竪穴住居跡、土坑、配石遺構などの検出が予想され、該期の遺物が比較的多く出土すると考えられる。また中世の遺構は、現在でも確認できる帯郭の検出と共に頂部平坦面での建物跡などの遺構の検出が考えられる。



第22図 天戸森遺跡 位置図



天戸森遺跡 出土土器



天戸森遺跡 全景 (北西から)



天戸森遺跡 西側平坦面近景(南から)

6 曲田地区農免農道整備事業

のざわたい野沢岱遺跡

1 遺跡所在地 秋田県大館市曲田字野沢岱102-4外

2 範囲確認調査期間 平成3年10月21日~10月22日

3 範囲確認調査対象面積 2,850㎡

4 工事区域内遺跡面積 2,200㎡

5 遺跡の立地と現況

①立地

野沢岱遺跡は大館市の南部、JR大滝温泉駅の北西約2.5kmにあり、西流する米代川の右岸に形成された河岸段丘(第3段丘)上に立地している。遺跡周辺は、北側と東側が侵食谷によって南東から北西に斜めに開析され、北東に向かって張り出す舌状台地となり、西側は一段低い平坦面となっている。調査区中央からやや南側には深さ2m以上の埋没谷が東西方向に入るが、現地表面はほぼ平坦で、中央部の標高は約89.5m、台地上の南側と東側沖積地との比高差は約9m、西側の平坦面との比高差は約3mを測る。

(2)現況

現況は杉林・雑木林・果樹園・原野で、調査対象地の杉林・原野は買収が終了し既に伐採・ 搬出済みであるが、雑木林・果樹園の一部は未買収で立木が残っている。

6 範囲確認調査の結果

①層序

I 層表土(10~25cm)、Ⅱ層大湯浮石層(5~10cm)、Ⅲ層黒色土層(20~60cm)、IV層黒褐色土層(18~25cm)、V層暗褐色土層、地山漸移層(10~15cm)、VI層明黄褐色土層、地山である。地山までの深さは西側平坦部で60~160cm、北端部では90cm、埋没谷は2m以上に達する。遺構確認面はIV層上面である。

②検出遺構と遺物

竪穴住居跡2軒、土坑2基、焼土1箇所、縄文時代前期前葉(第1トレンチより出土)・前期後葉~中期前葉(テストピット15・16より出土)・中期後葉(第2トレンチ、テストピット18・23より出土)の土器・石器類等(コンテナ2箱分)を検出した。

7 所見

①遺跡の種類

縄文時代前期前葉・前期後葉~中期前葉・中期後葉の集落跡と思われる。台地上の平坦部

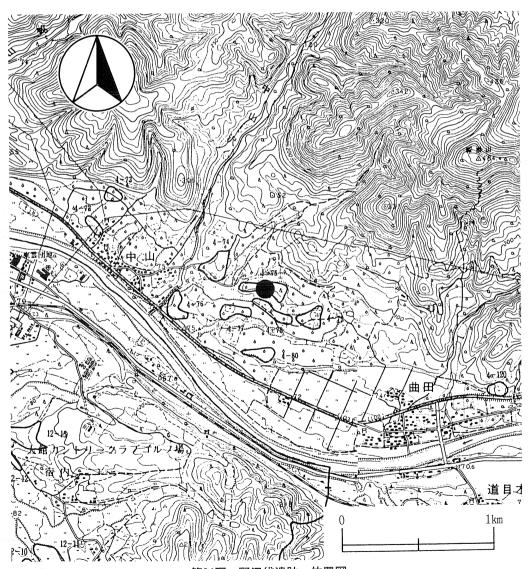
に大きな埋没谷が入ることなどから、土坑群と少数の住居跡からなる遺跡と推定される。

②遺跡の範囲と工事区域

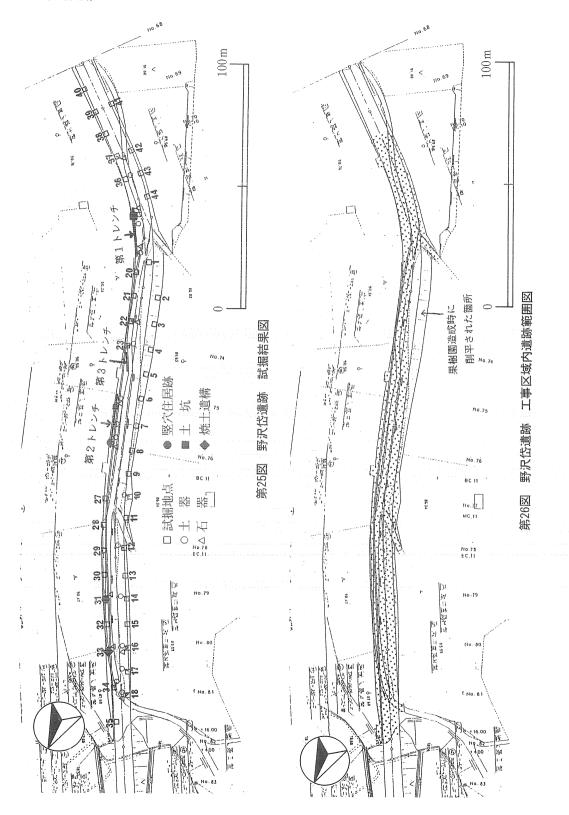
舌状台地全体が遺跡の範囲と思われるが、遺跡の南縁から北縁へ台地の東側を切り崩して 農道が通り、調査区西側平坦部の南半分は果樹園造成による削平を受けている。工事区域内 遺跡範囲は台地上の農道より東・西側の部分である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代前期前葉・前期後葉~中期前葉・中期後葉の土器・石器類が比較的少量出土し、 土坑群と少数の住居跡が検出されると予想される。



第24図 野沢岱遺跡 位置図





野沢岱遺跡 現況(南から)



野沢岱遺跡 竪穴住居跡検出状況(北から)

7 小滝阿仁前田停車場線地方道改良事業

かつらのさわ

1 遺跡所在地 秋田県北秋田郡森吉町根森田字桂ノ沢19-2外

2 **範囲確認調査期間** 平成 3 年10月21日~10月24日

3 範囲確認調査対象面積 10,100 m²

4 工事区域内遺跡面積 4.700 m²

5 遺跡の立地と現況

①立地

桂の沢遺跡は森吉町のほぼ中央部、秋田内陸縦貫鉄道阿仁前田駅の南東約3.3kmにあり、蛇行して西流する小又川の左岸に形成された河岸段丘(砂礫段丘)上に立地している。遺跡の占地する段丘面は、西側が小侵食谷によって南西から北東に斜めに開析され、北西に向かって張り出す舌状台地となっている。現地表面はほぼ平坦で、中央部の標高は99~100 m、台地上と北側の低地との比高差は約18 mを測る。

②現況

現況は水田、荒地、杉林で、調査対象地は既に伐採、搬出済みである。

6 範囲確認調査の結果

①層序

I 層表土($10\sim25\,\mathrm{cm}$)、II 層客土($10\sim25\,\mathrm{cm}$)、II 層黒褐色土層($10\sim20\,\mathrm{cm}$)、IV 層小礫混り暗褐色土層($10\sim30\,\mathrm{cm}$)、V 層大礫を含む褐色砂礫層(地山)である。 II 層は水田部分にのみ認められる。V 層上面までの深さは、台地の北側で約 $50\,\mathrm{cm}$ である。 遺物包含層は $I\simIV$ 層であるが、道路より東側の水田では II 層にのみ多量の遺物が含まれている。遺構確認面は IV 層上面である。

②検出遺構と遺物

竪穴住居跡 4 軒、土坑13基、配石遺構 3 基、縄文時代前期~晩期後葉の土器、石器類等(コンテナ 8 箱分)を検出した。

7 所見

①遺跡の種類

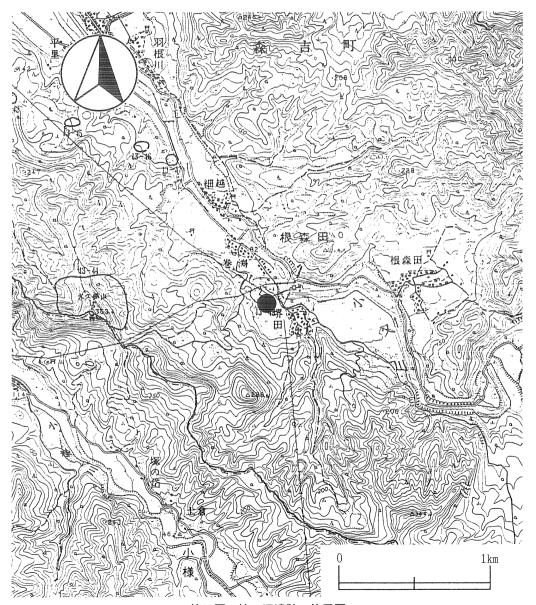
縄文時代中期後葉の集落跡と、後期~晩期の墓域と思われる。配石遺構は組石墓の可能性がある。台地縁辺部の北東側斜面には晩期の捨て場が形成されている。

②遺跡の範囲と工事区域

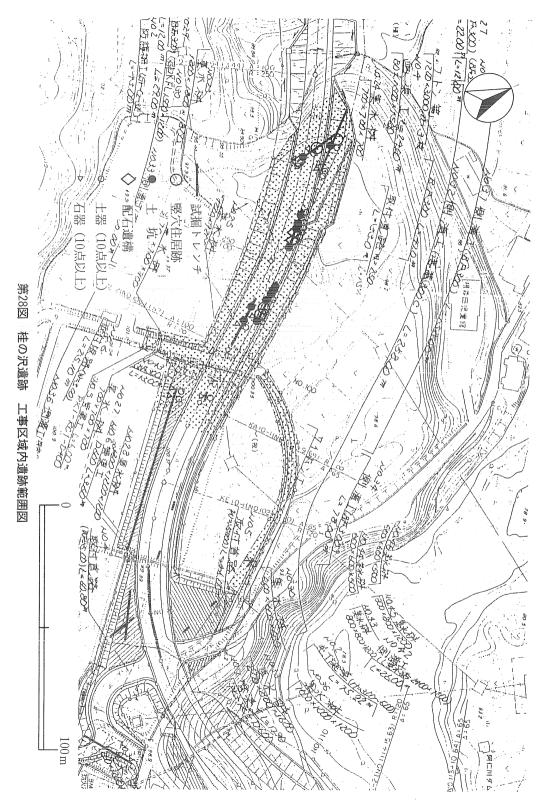
舌状台地全体が遺跡の範囲と思われるが、台地の西側に遺構群の中心がある。遺跡の南東側(No.101より南東側)は区画整理による削平と盛土が行われており、その客土中に若干の遺物が含まれる。工事区域内遺跡範囲は、遺跡範囲の中央部を横断し、北東側斜面の捨て場の一部にもかかっている。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代前期~晩期後葉の土器・石器類が多量に出土し、竪穴住居跡、土坑、配石遺構が 多数検出されると予想される。



第27図 桂の沢遺跡 位置図



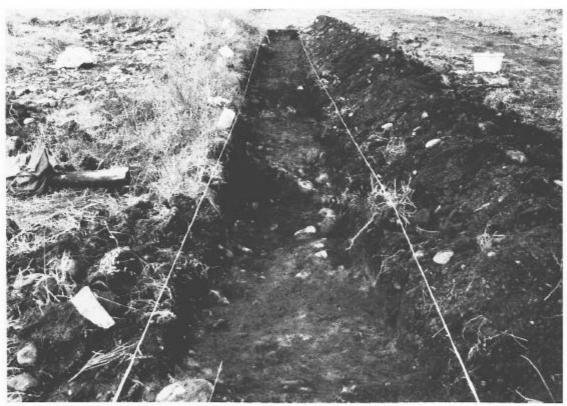
複載所の封



桂の沢遺跡 遠景(南東から)



桂の沢遺跡 現況(南から)



桂の沢遺跡 竪穴住居跡検出状況 (東から)



桂の沢遺跡 配石遺構検出状況(北から)